

授業科目 看護マネジメント (1) 看護管理	区分・教育内容		
	統合分野 看護の統合と実践		
授業担当者 保坂 るり子 (中通総合病院)	開講時期	単位	時間数
	前期～中期	1 単位	20 時間 / 30 時間
授業の目的 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉体系の中で、看護の役割とサービス提供の仕組みが理解できる。 2. 看護を組織として機能させるための看護管理の目的や機能について理解する。 			
授業の目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療福祉制度の中で看護専門職としての役割と機能が解る。 2. 医療・看護サービスを提供するための組織の構造や機能が解る。 3. 医療行為・看護行為の法的責任や倫理、患者の権利を擁護する方法が解る。 			
授業概要 <p>わが国は、2035 年には 3 人に 1 人が高齢者になると予測されており、地域包括ケアシステムの推進に伴い、医療の主体が病院から在宅・地域へと移行し、看護師への期待、求められる能力も変化している。その中で、看護師は、看護専門職としての役割・機能を正しく認識し、チーム医療において協働性や主体性、倫理性などの能力を発揮することが必要である。</p> <p>授業を通して、これまでの学びと合わせて看護師としての役割と機能を統合して自覚し、これからの時代、どんな場所で役割発揮していくのか、どんな看護を提供していきたいのか考えられる機会にしていきたい。</p>			
授業計画(進め方) テキストを中心に、適宜資料を準備します。 <ol style="list-style-type: none"> 1 回目 サービスとしての看護と看護サービス提供の場 2 回目 看護をめぐる制度と政策①：看護制度と看護政策 3 回目 看護をめぐる制度と政策②：診療報酬と看護人員配置基準、看護サービス評価 4 回目 看護マネジメントの目的とシステム①：看護管理とは 看護管理のシステム 5 回目 看護マネジメントの目的とシステム②：組織、リーダーシップ 6 回目 看護マネジメントの目的とシステム③：看護管理の実際 7 回目 人的資源管理：教育システム キャリアアップ支援 8 回目 看護倫理・患者の権利・看護アドボカシー 9 回目 看護倫理・事例から考える・人生の最終段階 10 回目 筆記試験 			
テキスト 系統看護学講座 専門 I 看護学概論 医学書院			
参考書・指定図書 看護管理学習テキスト 第 2 版 第 1 巻 看護管理概説 日本看護協会出版会 看護管理学習テキスト 第 2 版 第 3 巻 看護マネジメント論 日本看護協会出版会			
評価の方法 筆記試験 看護マネジメント 100 点満点中の 70 点			

授業科目 看護マネジメント (2) 国際看護	区分・教育内容		
	統合分野 看護の統合と実践		
授業担当者 加賀谷 園子 (専任教員)	開講時期	単位	時間数
	前期	1 単位	10 時間 / 30 時間
授業の目的 1. グローバルな視点や、異文化・多文化を理解する。 2. 世界の主要な健康問題とその背景、健康問題を解決するための取り組みがわかる。 3. 国際協力の在り方と看護活動の現状を知る。			
授業の目標 1. 異文化・多文化を理解し、多様な価値観について考えることができる。 2. 世界の現状や課題、健康問題がわかる。 3. 国際協力の在り方と国際的看護活動の現状がわかる。			
授業概要 グローバル社会であるといわれている今日、看護職者として、国際的な視野を持つことが求められる。講義とグループワークを通して、異文化・多文化における価値の違いを知り、グローバルな視点を育てたい。その上で、世界の人々の健康と保健医療の現状について、その国の保健水準や生活水準から捉え、看護活動の場の広がりや期待される看護の役割について学ぶ。			
授業計画(進め方) 1 回目 国際看護の概念 2 回目 異文化・多文化理解 (グループワークあり・図書室使用) 3 回目 国際社会の現状と課題、世界で起こっている健康問題についてグループ学習、発表準備 4 回目 グループ発表 (教室でPP を使い行う) 5 回目 国際協力と看護活動			
テキスト 系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 医学書院			
参考書・指定図書			
評価の方法 筆記試験及びグループワーク課題・参加態度により総合的に評価する。 看護マネジメント 100 点満点中の 30 点			